

公立久米島病院だより

6・7月の休診日：毎週日曜・月曜

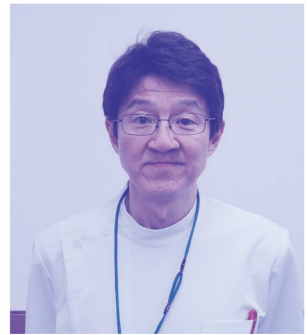
☎985-5555

受付時間／午前8時30分～11時
午後1時～4時

就任あいさつ

病院長

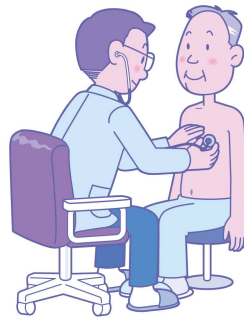
會澤 佳昭



4月から病院長を拝命いたしました。前任地は北海道の岩見沢市立総合病院で、内科（循環器）を担当してまいりました。岩見沢市は北海道の中央、札幌圏の東側にあり、人口約8万人の都市で、北海道の中でも豪雪地帯として有名で、12月～3月まで雪に覆われます。病院は南空知地域（面積は九州の佐賀県くらいで、人口は約16万人）の拠点病院で、多くの救急患者様が搬送されてきました。その中で急性心筋梗塞や不安定狭心症の患者様に対して緊急カテーテル治療を昼夜、休日問わず行ってきました。生活習慣病はよっぽど悪くない限り自覚

症状が無く、軽視されがちです。しかし悪い状態で放置していると動脈硬化が進み、10年、20年後に心筋梗塞や脳卒中（脳梗塞、脳出血）を発症し、命に係わる状態に陥り、救命されても後遺症で多くの方が介護の必要な状態になってしまいます。久米島では心筋梗塞や、脳卒中にならないように、生活習慣病の管理を中心に診療していきたいと思っております。また災害医療にも関わっており、東日本大震災の時には、地震10日目に現地入りして約2週間避難所での巡回診療を行い、その後日本災害派遣医療チーム（DMAT）に登録し、昨年発生した北海道胆振東部地震で3日間DMATとしての活動を行いました。久米島でも自然災害（地震や津波、集中豪雨、台風、土砂災害等）や人為的災害（航空機事故、海難事故、観光バスの事故等）は、いつ起こっても不思議ではありません。災害に対しては備えが重要です。災害が発生した時の病院としての態勢づくりや、消防、

役場との連携体制も構築していきたいと考えております。この度、縁あって久米島に赴任して参りました。今後は久米島の島民の健康、命を守るために尽力して参ります。



HSCを 知っていますか？

小児科 渡邊 幸

「HSC: Highly Sensitive Child」といって、敏感な子」というのをご存知ですか？ 約20年前にアメリカの心理学者アーロン博士が発表した概念で、実に「5人に1人」の子供がこの気質を持っていると言われています。日本では数年前に入ってきた概念で、近年注目されてきてい

ます。まずはHSCの特徴を見てみましょう。

①些細な刺激を察知する

小さな音やかすかな臭い、わずかな変化に気がつきます。家具の配置が変わったことや、母親が髪の毛を切ったことなどに、誰より早く気付いたりします。

②過剰に刺激を受けやすい

刺激を受けすぎて楽しみなはずの旅行やイベントで疲れたり、楽しいことがあった日には興奮して眠れなかったりします。

③感情の反応が強く、共感性が高い

周囲の大人特に親の心を読んで気を使って声かけしたり、動物が食肉として食べられる事に心を痛めたり、人や物に対する思いやりが深いです。

④深く処理する

物事の表面でなく、深いところまで考えて処理します。

年齢の割に大人びた事を言ったり、深い質問をしたりする一方で、あれこれ可能性を考えてなかなか決断できなかつたりします。

HSCの子どもはその特性がゆえに、傷つきやすかったり、過剰に不安がったり、「臆病」「わがまま」などと思われて「扱いにくい子」と思われていることが多々あります。ですが、この感受性を長所として捉えて伸ばす様に周囲の大人が関わると、感受性豊かで思いやりのある子どもに育ちます。「5人に1人」の気質なので、多くの子どもと接する大人はなんとなく思い当たる事があるかもしれませんが、これから数回にわたってHSCについてご紹介していきます。

